

大雪山系縦走報告

7日目（9月2日(水)）

M3 只左一也

2009年8月27日(木)－9月6日(日)

メンバー：M3 只左一也、M3 大橋雄一

1日目：羽田空港→旭川空港→(バス)→層雲峡
→(ロープウェイ・リフト)→七合目→
黒岳→黒岳石室（小屋泊）

2日目：荒天のため沈澱（小屋泊）

3日目：黒岳石室→間宮岳→旭岳→間宮岳
→北海岳→白雲岳避難小屋（小屋泊）

4日目：白雲岳避難小屋→忠別岳→五色岳→
沼ノ原大沼（幕営）

5日目：沼ノ原→五色岳→化雲岳→
ヒサゴ沼避難小屋（小屋泊）

6日目：ヒサゴ沼避難小屋→トムラウシ岳→
南沼キャンプ場（幕営）

7日目：南沼キャンプ場→オプタテシケ山→
美瑛富士避難小屋（小屋泊）

8日目：避難小屋→美瑛富士→美瑛岳→
十勝岳→上ホロ避難小屋（小屋泊）

9日目：上ホロ避難小屋→富良野岳→
富良野岳分岐→(原始ヶ原)→五反沼
→(原始ヶ原)→富良野岳分岐→
原始ヶ原登山口→(車道)→布礼別→
(バス)→富良野駅→(電車)→
上富良野駅→日の出キャンプ場
(幕営)

10日目：十勝岳温泉往復（幕営）

11日目：上富良野→旭川空港→羽田空港(解散)

起床	03:00	
南沼テント場		04:30 着
トムラウシ山	04:50 着	05:15 発
南沼テント場	05:25 着	05:45 発
三川台	07:10 着	07:20 発
ツリガネ山	08:25 着	09:15 発
コスマヌプリ	10:50 着	11:00 発
双子池	12:30 着	14:00 発
オプタテシケ山	16:00 着	16:30 発
ベベツ山	17:40 着/発	
美瑛富士避難小屋	18:40 着（小屋泊）	

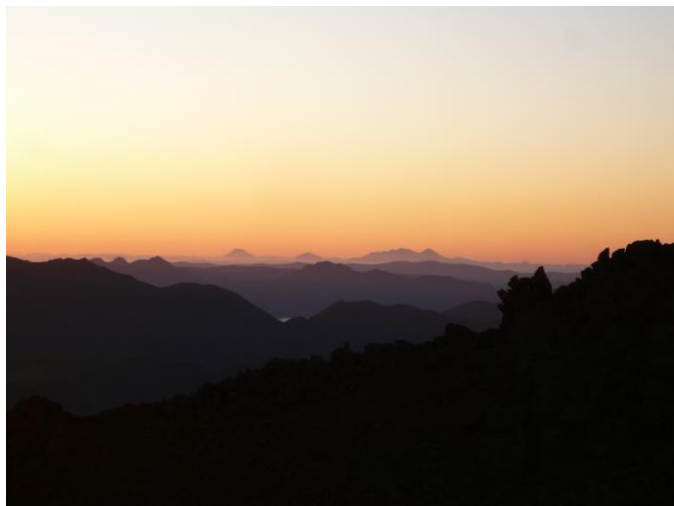
（歩行時間：約 10 時間）

もとの計画では、この日は双子沼までの予定だったが、予備日を2日分使ってしまって日程的に余裕がなくなったので、コンディションが良ければさらに先の美瑛富士避難小屋まで行くつもりだった。地図上は13時間40分の行程で厳しい1日なることが予想されたが、この日は台風一過で快晴の予報だったので、前日に展望のなかったトムラウシ山頂で日の出を拝もうと、欲張りなのは分かっていたが山頂をピストンすることにした。

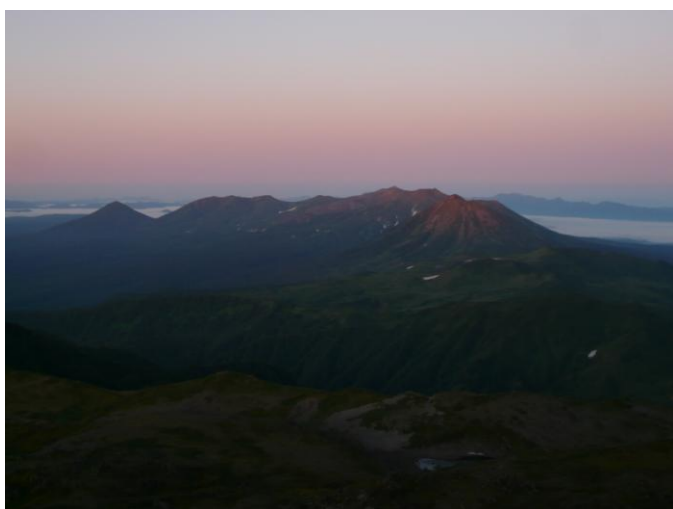
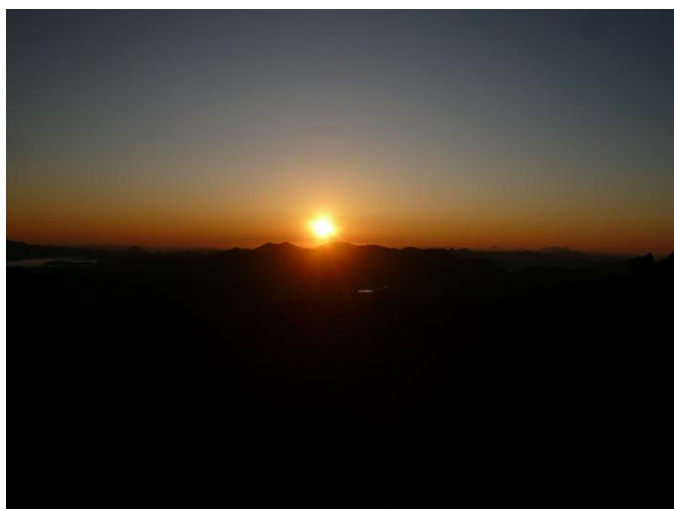
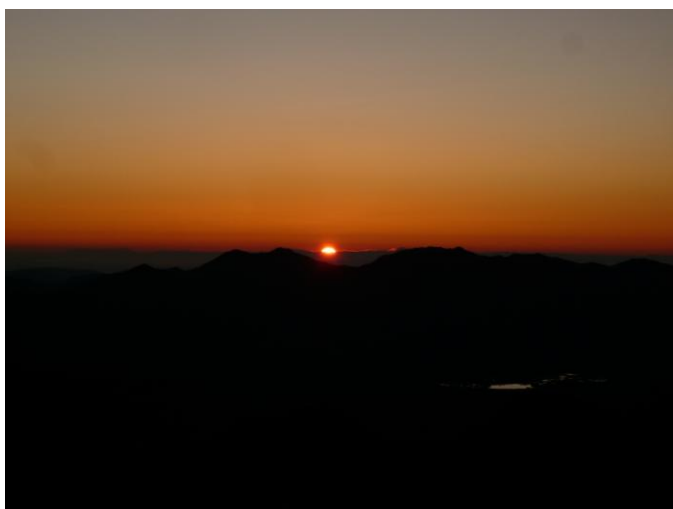
早朝に起床して外を覗くと、案の定、満天の星だった。急いで食事を済ませ、荷物を整理して、空身でテント場を出発。空が次第に明るくなっていく中を快調に登り、日の出の直前に山頂に到着。雲ひとつない快晴で、日高山脈の方はもちろん、遙か東の阿寒の方の山々までくっきり見える。これから進む十勝岳方面の稜線がずっと見渡すことができ、わくわくした気分になる。日の出を拝み、展望をたっぷり楽しんで、テント場に引き返した。



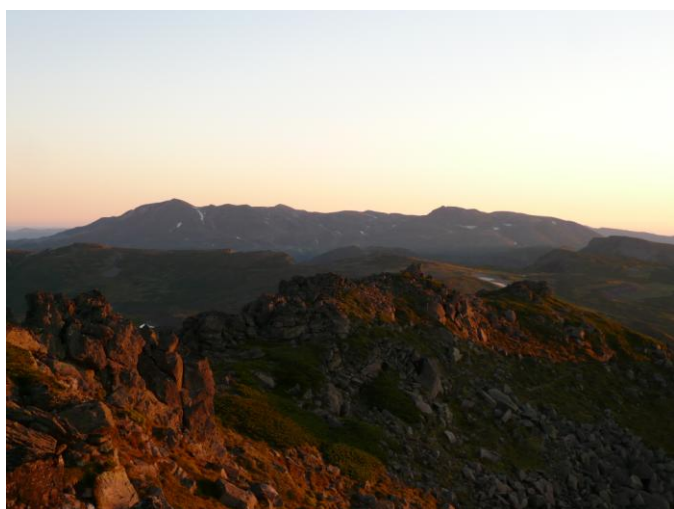
日の出前のトムラウシ山山頂。



遥か東に見えるのは、阿寒の山々だろうか。



十勝の山々。



北の旭岳や白雲岳。



この日、これから進む尾根道のことを考えながら、テン場に引き返す。



テン場でテントをたたみ、出発。5時半を過ぎてしまった。南沼まで急坂を下ってからは、平坦な道が続く。右手にはイワイチョウの黄葉で黄色に染まった黄金ヶ原（銀杏ヶ原）と呼ばれる台地が広がり、左手は切れ落ちた急斜面の向こうにオプタテシケ山に続く稜線を望みながら歩く。やがて左の眼下に見事なカールが出現した。湿地の中に池が散在し、見事な景色だった。カールを見下ろしながら進むとやがて分岐点となる三川台に到着。地図で2時間半ところを1時間半弱と、快調なペースだった。

西を向いていた道はここで南に折れてさらにカールの縁を進む。ハイマツの林の中をくぐるように進み、休憩を取りながらアップダウンを繰り返してツリガネ山（1708m）、コスマヌプリ（1626m）のピークを越えていくと、次第に正面のオプタテシケ山が大きくなってきた。途中で初めて、人に出会った。札幌から

来たという若い単独行の女性で、頭にさらしを巻きつけ、大きな鳴り物、熊スプレーと万全の格好だった。双子池のテン場の近くにわずかに水が残っているという情報をもらった。

そして、目標よりかなり早い、12時半に双子池のテン場に到着。標準で9時間半のところを5時間半強、休憩を入れても7時間足らずで来てしまった。

周辺には新鮮な大きなヒグマの足跡があった。涸れた小さな沢にわずかに水が残っているのを見つけて、美瑛富士避難小屋では水が得られないので、沸かして水筒に詰められるだけ詰めた。水を沸かしながら1時間半ものんびりしてしまい、14時によりやく双子池を出発。



南沼まで下る。



南沼。



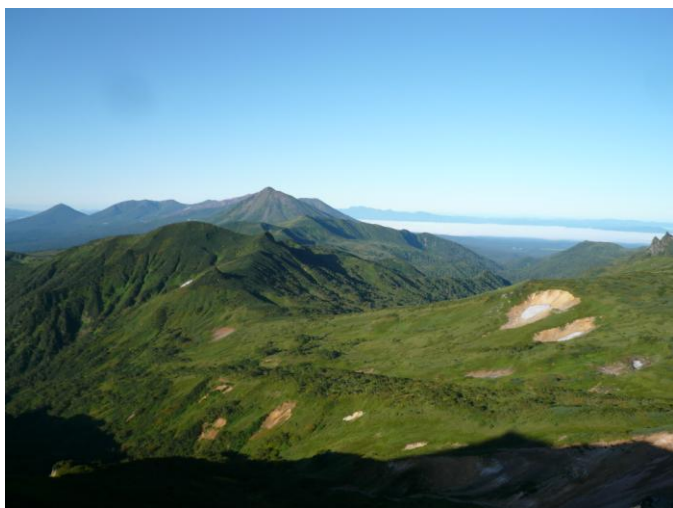
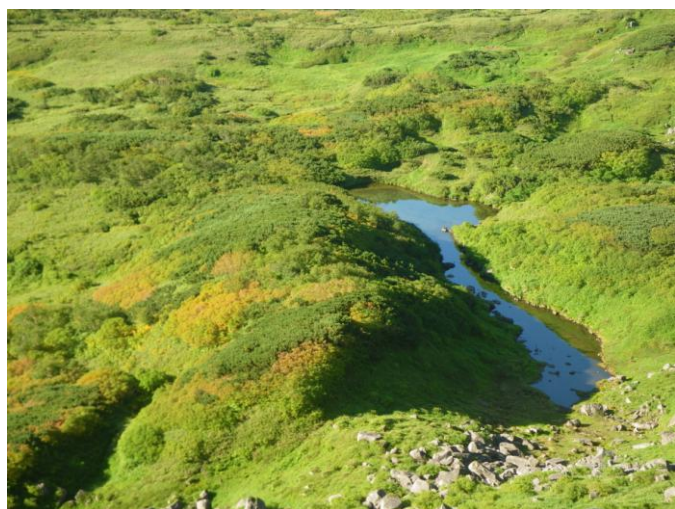
南沼から先は平たんになる。右手に黄金ヶ原が広がる。



カールには湿地が広がる。



カールの縁を進む。正面は三川台と呼ばれる台地。



カールの向こうには、これから縦走する稜線がオプタ
テシケ山まで続く。



見事なカール。



三川台の分岐。



カールの縁を進む（左がカール）。



カールの向こうは歩いて来た道。一番高いところがトムラウシ山。



右端に見えるのがオプタテシケ山。



ピークをいくつも越える。



後を振り返ると、トムラウシ山の山頂が独特な形をしていた。



ツリガネ山山頂。





樹の根で少し歩きにくかった。



トムラウシ山を振り返る。



オプタテシケ山が次第に大きくなる。



双子池のテン場。双子池は見えない。



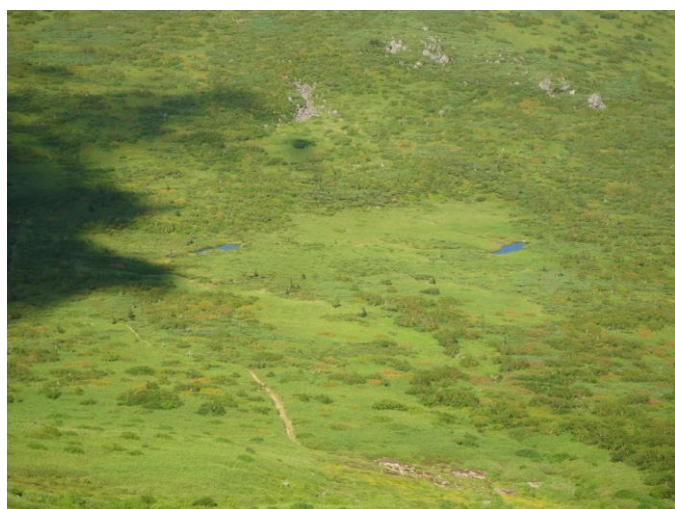
標高差 600m の急登。

双子池は標高 1400m、オプタテシケ山は標高 2000m と、標高差 600m の直登となる。きつい傾斜の道を登って行くとぐんぐん高度を増し、あっという間に双子池を眼下に見下ろすような高さまで登ってしまった。厳しい登りでなかなかペースが上がらず、標準時間通りたっぷり 2 時間かかってようやく山頂に到着。16 時と時間が遅かったが、眺めが素晴らしかったので 30 分ほどのんびりして出発。

オプタテシケ山までの登りで疲れてしまい、ペースが上がらなかったが、この日は避難小屋泊まりだったので、あせらずに夕暮れ時の景色を楽しみながら稜線を進む。ベベツ岳のピークを越え、石垣山のピークを巻くと暗くなりだして、夕方 6 時半過ぎ、ようやく美瑛富士避難小屋に到着。すでに暗くなっていた。

小屋の前に立つと、ミミズクが屋根から飛び立ち、私たちを観察するように頭上で旋回してから闇に消えていった。小屋には先客 3 組 4 人がいたが、遅い時間に到着した私たちのためにスペースを作ってくれた。

長かったが充実した 1 日だった。



双子池を見下ろす。



遠くはトムラウシ山。



ぐいぐい高度を稼ぎ、のんびり休憩したテン場ははるか下に見下ろすようになってしまった。



双子池がどんどん小さくなる。



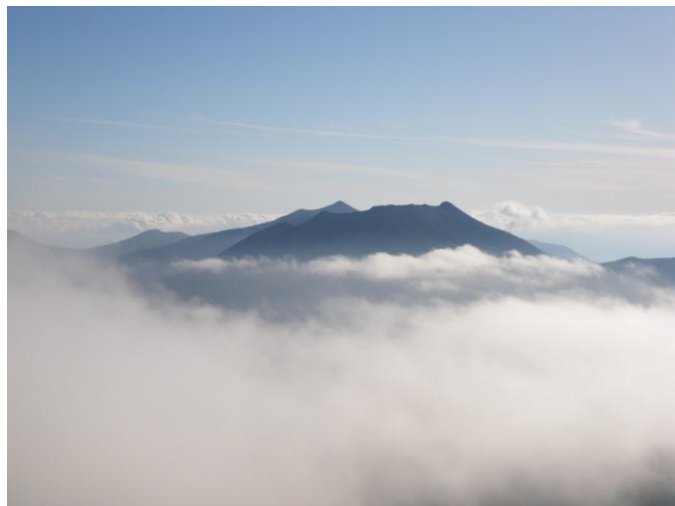
ピークにたどり着いたら、細い稜線が山頂まで続く。



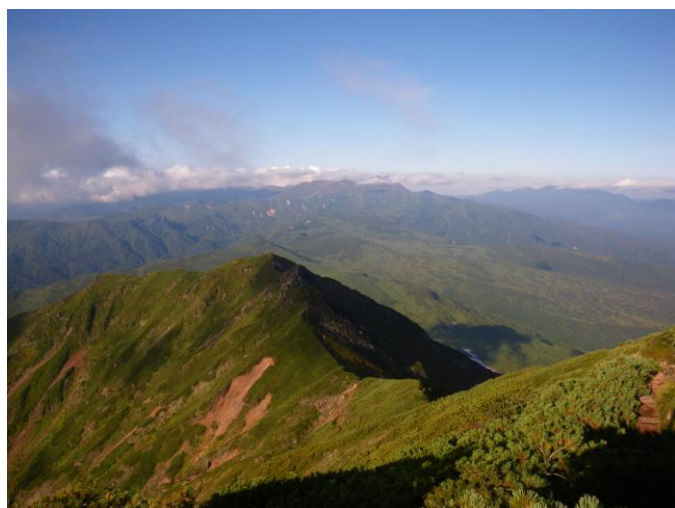
少し雲が多くなってきた。



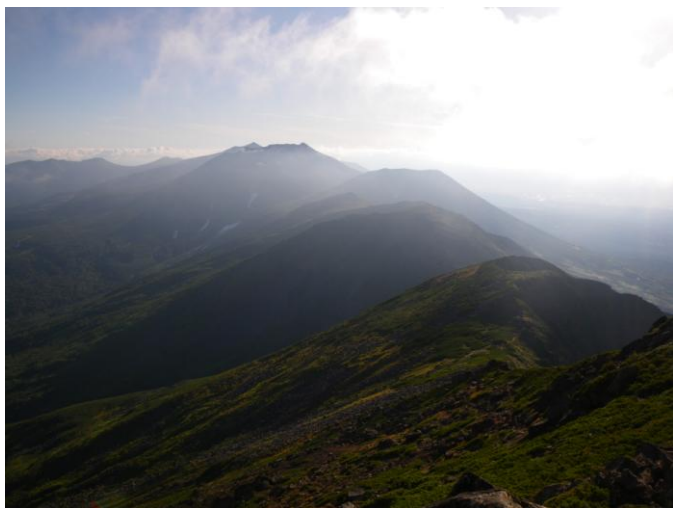
山頂まであと少し。



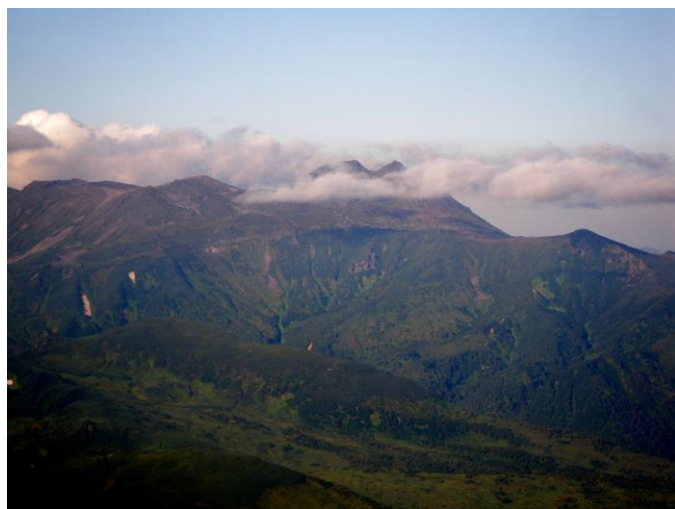
手前が美瑛岳（2052m）、中央左に見えるピークが十勝岳（2077m）。



北の眺め。中央がトムラウシ山。



南の眺め。中央の高い山は美瑛岳と十勝岳。その右手前が美瑛富士。



トムラウシ山。



オプタテシケ山からベベツ岳に続く稜線。



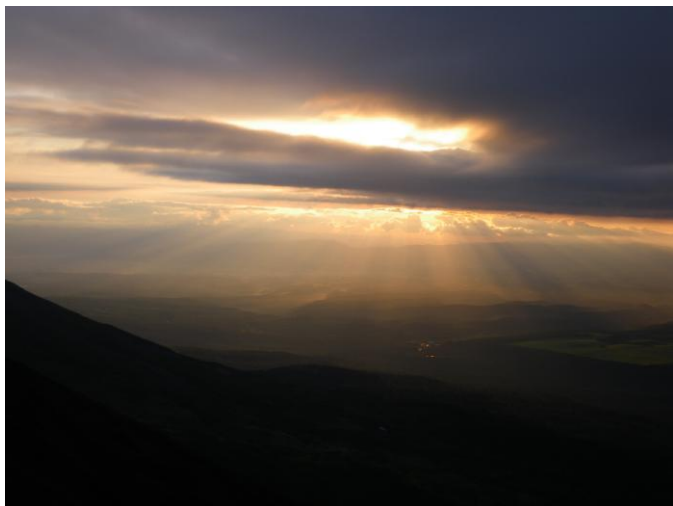
ベベツ岳。



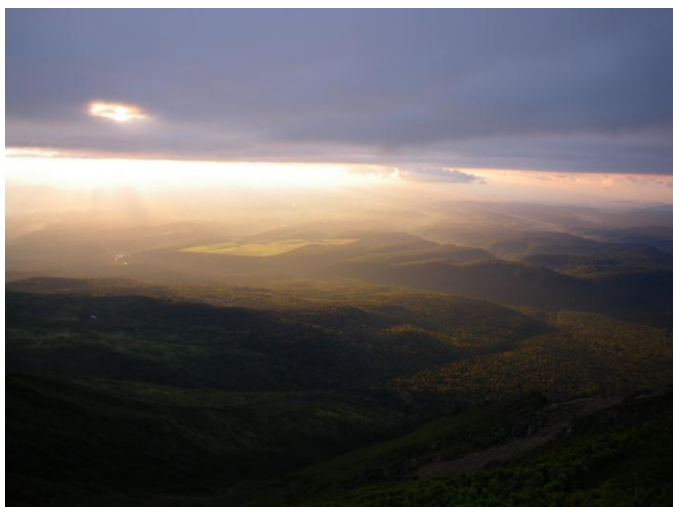
ベベツ岳の山頂付近。



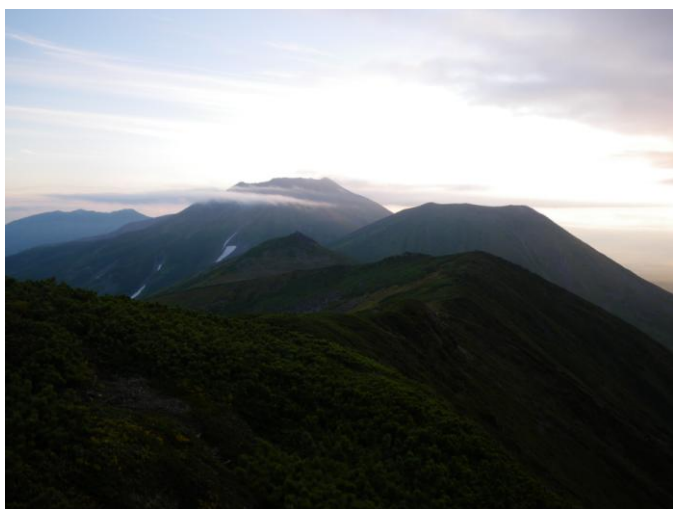
オプタテシケ山を振り返る。



石垣山のピークの左を巻く。



ようやく小屋が見えてきた（中央）。



小屋に着いたときはすでに暗くなってしまっていた。